

私たちの未来を守っていく

岐阜市立陽南中学校 2年
若山 百萌佳(わかやま ももか)

私は今、気候変動に興味をもっています。なぜなら、学校の授業やニュースなどでよく目にしたり、耳にする機会が増え、少しずつ自分で調べるようになったからです。気候変動の中でも特に地球温暖化が気になっています。地球温暖化は、二酸化炭素など温室効果ガスの増加が原因だと言われています。二酸化炭素などが増加したことで、地球温暖化は進んでいると考えられます。しかし、二酸化炭素などは空気中にあるため目には見えず、どれほど増加したのかが分かりません。そこで質問です。最近春でも暑くなったと感じることはありませんか。また自然災害が増えたと感じることはありませんか。私たちが暮らしている日常は少しずつ変化してきているのです。私は、二酸化炭素を少しでも削減することはできないのかと発電方法に注目してみました。今の日本では火力発電の占める割合が約7割を超えています。それでも昨年度よりも減少した方です。太陽光や水力など再生可能エネルギーの占める割合は1割にも達していません。様々な発電方法があるのは自然を有効活用できる可能性を秘めています。まだまだ火力発電に頼っているという部分があります。そこで、私は去年の夏休みに、実際に自分で発電をしてみることにしました。この装置を見てください。これは発電床という装置です。私がやってみたのは、この装置を使って、この装置の上に人が乗ることで発電し、その発電したものをエネルギーに変えて実際に使ってみるというものでした。やってみると発電することは可能でしたが、それをエネルギーに変えて何か物に使ってみるということがとても難しかったです。だからこそ限られたエネルギーを大切に使うべきではないのかなとも感じました。例えば、これからの時間は日照時間が増え、気温も暑くなってきます。だからこそ、必要な場所・物以外の節電をしてみたりするのもできると思います。それはゼロカーボンアクションという取組の一部です。その取組では一例ではありますが、年間の二酸化炭素削減量が約20 kg ほど削減できたそうです。それは最初に話していた目に見えない二酸化炭素が手にとって分かるような重さになっているということなので効果はあるんだと思います。

日本ではゼロカーボンアクションが取組として行われていますが、他の国ではどうなのでしょう。SDGs の目標達成率は毎年各国ごとでランク付けされています。それを SDGs ランキングと呼びます。2021年度版では1位フィンランド、2位スウェーデン、3位デンマークとなっており上位3カ国を北欧の国が占めています。また上位3カ国入りとはなりませんでしたが、ノルウェーやドイツなども上位にランクインしています。フィンランドでは、公的福祉制度が充実していたり、ジェンダー平等などの取組が行われていますが、何よりも環境保全に対する意識がとても高いです。国民一人ひとりが環境保全に対する意識が高いことから1位になったのだと考えられます。ですが、2022年度版でのランキングでは大きく変化がありました。2位と3位が変わりました。2位にノルウェー、3位にはオーストラリアが入ったのです。2021年度版でのランキングで上位5カ国以内に入っていなかった国が上位にランクインしたということは紛れもなく取組の事実があったからです。ですが、日本は2021年度版から1つ順位を落とし、19位となってしまいました。私は今、実際に家でできることをやっています。例えば、先ほどの節電のようにエアコンにタイマー機能をつけたり、エアコンの温度を1度でもあげたりするだけでもエネルギーの削減につながります。

私たちが住んでいる日常を自分たちの手で守るためにも、皆さんにもできることはあるんじゃないでしょうか。私たちの暮らしが安心して快適に暮らせるようにするためにも、自分たちの手で自分たちの生活を守っていくためにも、少しでもいいので地球温暖化に興味を持ってみませんか。